

平成30年度第1回東胆振圏域地域医療構想調整会議病院部会

開催日時	平成30年12月5日(水) 18:30~20:00
開催場所	北海道胆振総合振興局保健環境部苫小牧地域保健室2階会議室
会議次第	
<p>1 開 会</p> <p>2 あいさつ 北海道胆振総合振興局保健環境部苫小牧地域保健室長 石井安彦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当圏域の地域医療構想は道内の他圏域と状況が大きく異なり、将来的な病床の必要量が既存病床を上回る状況。推計にあたっては、高度急性期、急性期は現在の患者の流出入が続く試算、回復期、慢性期は全て居住地の医療機関を受診する前提であり、逆にこの必要量にするためには、現在管外に流れている回復期、慢性期の患者さんを管内に呼び戻さねばならない。 ・管内病院の病床利用率は非常に高止まりしている。今後、患者さんが増えてくる状況の中で、圏域内で治療を受けたいと希望する患者さんを受け入れていくためには、より一層、医療機関間の連携が重要となってくる。 <p>3 議 事</p> <p>(1) 東胆振の状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料1から3に基づき説明 <p>(2) 平成30年度意向調査の結果概要について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料4に基づき説明 <p>(3) 意見交換等 【医療機関間の役割・機能の分担と連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の入院基本料、急性期治療後の患者割合、回復期リハビリテーション病床や地域包括ケア病床の運用状況、在宅医療、介護施設等との今後の関わり等について意見交換。 ・関係医療機関間で情報の共有を図った。 <p>(4) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療構想推進シートの修正点について 等 (資料5) <p>4 閉 会</p>	
主 な 意 見 等	
<p>■病床数を集計する際、1つの病棟の多い方の区分で病床数を報告してしまうことになっている。</p> <p>各病院1つの病棟で様々なことをされているので、「病棟で多い方」ではなく、それぞれの役割の病床数の実数を報告していくことはできないのか。</p> <p>●国の検討会でも議論となり、病床数単位での報告との意見も出る。例えば高度急性期が不足との見方もあるが、恐らくICU以外の急性期に分類されている病棟で、かなり資源投入されている患者もみていると思う。一方、ある程度時間が経過し、急性期と異なる状態までみている場合もあると思う。トータルで7~8割が、「急性期」の患者で占めるであろうということで、急性期としましよとの前提での報告となっている。ある1人の入院患者をみると、急性期の患者が入院期間中ずっと急性期の診療報酬点数ではないので、現段階ではこのような形に落ち着いていると思う。</p>	